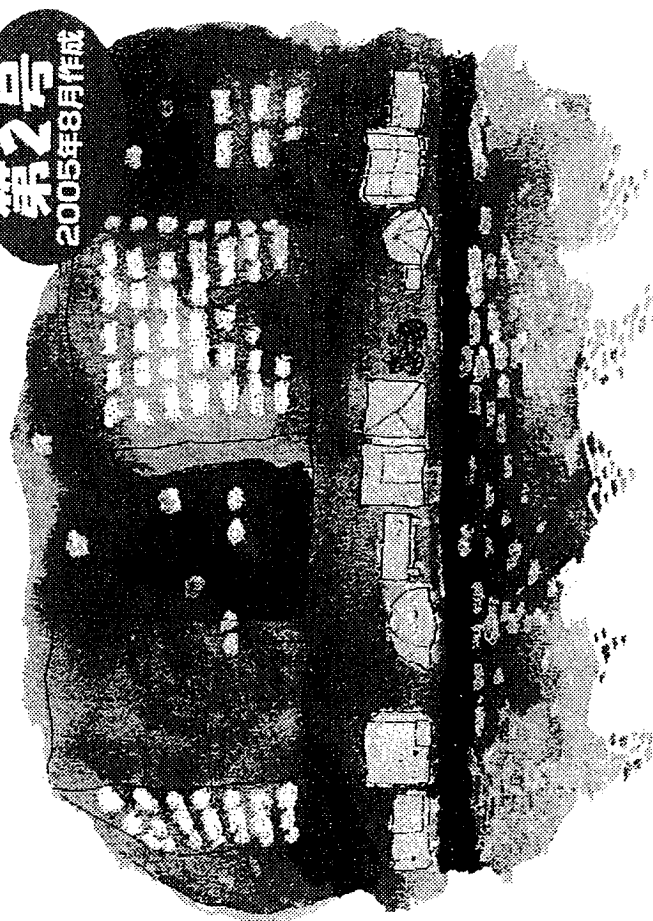


けっかく

結核のしおり

第2号
2005年8月作成



イラスト：渡辺つむぎ

〔発行〕新宿ホームレス支援機構

新宿区高田馬場2-6-10 関ビル107号室
電話・FAX 03(5155)2705

E-mail: YHYO7064@nifty.ne.jp

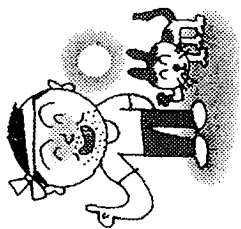


Illustration by Hitoshi Tanaka

ホームレスの人の間に結核患者が増えていることを受けて、行政により新しく実施されるようになったのが、前に書いたように「路上結核検診」や自宅で薬を飲む方法です。結核は治療すればなおる病気なので、心配せずに、さまざまな支援策を利用しましょう。一人で福祉事務所などに行くのが心配な方は「新宿ホームレス支援機構」に連絡をください。

新宿ホームレス支援機構

新宿区高田馬場2-6-10 関ビル107号室
電話・FAX 03(5155)2705

E-mail: YHYO7064@nifty.ne.jp

はじめに

この「しおり」は、東京の野宿の方々にお配りしています。昨年
の1号につづき、2号を作りました。昨年配れなかった地域もある
のですが、「しおり」は、2号として独立しています。手に取ってみ
てください。

まず、この1年に、どのように、施策が進んだかお知らせしたい
と思います。

◆東京都の「実施計画」

04年7月に、「ホームレスの自立支援等に関する東京都実施計画」
が発表されました。自立支援法にもとづいて、北九州、神戸、大阪、
名古屋、横浜、千葉などさまざまな所でも実施計画がつくられてい
ます。

都の実施計画は、以前からある自立支援事業（緊急一時保護セン
ターと自立支援センター）に加えて、「地域生活移行支援事業」を打
ち出しています。今のところ、大きな公園の居住者のみが対象にな
っています。民間のアパートに、3,000円の家賃で入居し、希望者

には公的就労もあわせんとするとい
うものです。生活保護、自立支援
事業、移行支援事業などは、みな
さんが路上生活から脱却するため
の手段ですが、この他に、健康面
についてのものなど、様々な施策
が挙げられています。この
実施計画にもとづいて、入浴や
散髪、医療に関するサービスも進
むことが期待できます。



Illustration by Geoff Read

◆みなさんは、このような情報を知っておられるでしょうか？こ
れまでに、どれが事業を利用したことがあるでしょうか？地域に
よっては、こういう情報が何もないまま、路上生活を送っておられ
る方もおられることでしょう。私たちは、路上生活を余儀なくされ
ている方たちに、どんなサービスがあるのかという情報が伝わるこ
とを願っています。この「しおり」には、結核について、病気その
もの、また、どのようなサービスがあるのかについて載せています。
お読みになって、ぜひ活用してください。

1 けつかく 結核のことを知っていますか？

よく知られているように、結核という病気は、日本では撲滅され
たと考えられていたのですが、90年代に入って再び患者が増え始め、
関係者の中で心配されてきました。2000年以降は患者発生数などは
落ち着いてきているものの、路上生活を余儀なくされているみなさ
んや外国人労働者など、特定のグループにおける蔓延ぶりは解決の
方向が見えていません。

路上生活の人々になぜ、結核が蔓延するのが、原因はたくさんあ
ると言われています。ストレスが多い、栄養状態が悪い、治療を中
断する人がいることなどです。結核は空気感染なので、狭いブルー
テントに複数の人が住んでいたりする状況も原因と言えるでしょう。
いずれにせよ、結核は早期発見・早期治療をすれば、必ずなおる
病気です。また、治療を中断することはとても危険なことです。結
核について、この2つのことを頭に入れておいてください。

2 東京での結核の状況

定まった住居を持たずに、路上、ドヤ、サウナ、自立支援センターなどの施設に暮らしている結核が発見される人の数は1年に約300人です。その中では、山谷を抱える台東区がもっとも多く、約100人、次が新宿区の約70人です。これらの患者さんの病气発見経路は、路上生活者のための結核検診、福祉事務所や保健所に相談、自分で病院へ、救急車で運ばれた、などがあります。自分で病院へ行った方や救急車を呼んだ方などは、結核が重くなっていたからでしょう、亡くなる方の率も高くなっています。

ちなみに、大阪の釜が崎では、西成区全体ではなく、釜が崎地区だけで年間約250人の患者が発生しており、これが日本でもっとも高い数字です。

3 結核ってどんな病气?

- 咳やタンが長くつづきます。ふつ々の風邪だと1~2週間で良くなるのがもっとつづくのです。2週間以上長引く咳は赤信号です。
- 咳・タンと同時に微熱が出たり、体がだるくなることが多いです。

4 どんな人が罹りやすいか?

- 栄養状態の悪い人
- 昔、結核にかかって完全に治るまで治療しなかった人
- 糖尿病・腎臓病にかかっている人
- 胃を手術したことのある人

5 結核が心配になったら

- 2週間以上つづく咳など症状のある方は、最寄の福祉事務所に行き、そう言います。医療機関でレントゲン撮る手配をしてくれます。費用はかかりません。
- 「路上結核検診」(路上生活者のためのレントゲン検診)が実施されている地域もあります。保健所などからお知らせがみなさんのもとに回ってきます。しかし、回数が少なく、年に1回がふつうです。
- 他の病気の場合もそうですが、血を吐いたり、動けないほど苦しい場合は、周りのなかまや通りがかりの人に救急車を呼んでもらいます。

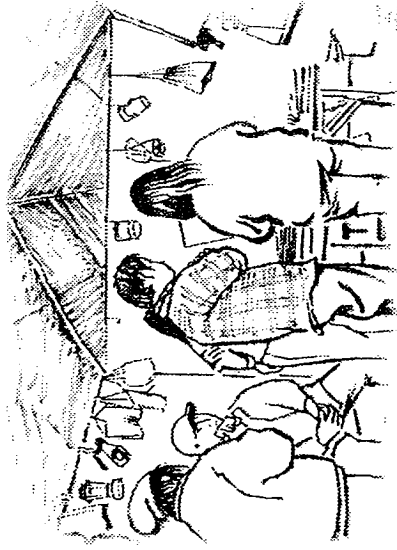


Illustration by Geoff Read

6 治療はどうすればいいの?

最近はいよいよ薬ができてきているので、初めて結核の治療を受ける人のほとんどはこれら薬をきちんと飲めば半年から1年以内に完全に治ります。が、きちんと薬を飲まなかったりすると、治らないばかりか薬が効かなくなってしまう。治療を途中で止めたりすると、体が弱ったときに、ひそんでいた菌が勢いを強くし、前より悪い状態になってしまいます。主治医に「なおった」と言われるまできちんと治療をつづけることが大切です。

治療の方法についても、入院することが必要なのですが、後のほ

うの座談会にも出てくるように、どうしても事情がある場合は、路上生活のまま治療を完了した方もいるので、専門家とよく相談してください。

また、最初は短期間入院するとしても、2〜3か月で退院し、宿泊所などの施設やアパートに住んで、保健所に毎日薬を飲みに通う方法(DOTS)も選べるようになってきています。

7 その費用は？

結核だと診断されれば、路上生活の方の場合、まず入院になり、入院費用と日用品費は、結核予防法や生活保護法が適用されるので、負担はありません。治療中はこのように、費用の心配はないわけです。しかし、これまでは、結核が治ったと勝手に保護が切られる、という心配がありました。これも、路上生活者への生活保護の適用が変化してきており、就職活動をしていいる間も保護を切られることはなくなっています。

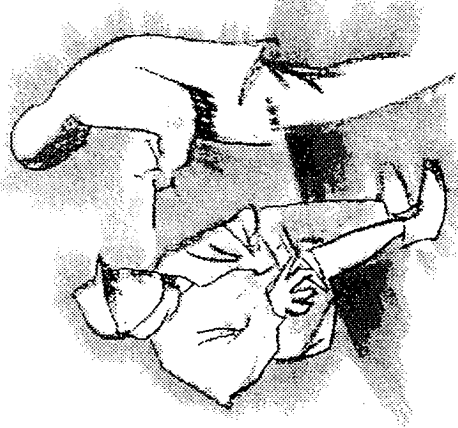


Illustration by Geoff Read

こえ

Hさん
(61才)

自分は新潟出身。若いときから飯場暮らしで各地を転々としていた。契約で3〜4年いたところもある。4〜5人の共同部屋だった。定期検診はきちんとしていた。私は引っかかったけれど再検査をすると「異常はない」と出る。だから安心して、まさか自分が結核に罹ろうなどとは夢にも思っていなかった。

いい仕事があると言われ、仲間でそこをやめ、他に移ったのだけど、その頃から咳がひどくなった。特に夜がひどいので、昼間、身体が暖まっていたときにはそれ程でもないで気がしなかった。

次の仕事場は、労働時間が長く、きつく、3か月もたなかった。新宿御苑周辺や戸山公園で野宿している友人がいて、「乗ないか」と言われた。多少金があり、食べるだけなら何とかかなる、という気持ちで、野宿を始めた。しかし(馬場の)ヤマでは仕事になかった。顔付けの人はばかり仕事が行ってしまう。野宿生活は1年以上になってしまった。

レントゲンの検診は毎回受けていた。でも再検査になっても結核菌は出ていないので、いつも「異常なし」になっていた。ある時「お前の咳のひどさは、他の人と違うぞ」と仲間と言われた。自分でもさすがに気になって、新宿福祉に行き、紹介されて、K病院に行った。即日入院になった。胸に3か所、穴があいていた。それでも結核菌は出ていなかった。1週間は隔離状態で検査だった。その間は部屋から一歩も出してもらえなかった。薬をたくさん飲み続けた。半年間の入院だった。

それでも自分は早期に治療をできて、軽い方だ。点滴もしなかった。穴は2つふさがったが、もうひとつはあいたままだ。再発の危険がある。

援事業」を利用して、戸山公園でレントゲンを撮ったら、再検査になり喀痰塗抹・喀痰培養などの検査の結果で発病している事がわかり入院と言われた。もう、アパートにも入っていたし、「まさか自分が……」と思っ、心の中で何かが崩れていくようにジョックが大きかったが「早く元の体に戻し仕事に復帰する」と心で言い聞かせていた。主治医に「完治するまでに半年位はかかる」と言われ再びジョックで頭の中から今までの思いが消え、真白になってしまった。

入院は2か月と言われ、気持ちを取り直し入院生活をスタートさせた。退院したら仕事に行けるように最初の1か月くらいは体が鈍らないように運動していたが続かなかった。いろんな思いが駆け巡り考えてしまいやめてしまったのだった。入院中は仲間が見舞いに来てくれたので少しは気がまぎれた。しかし、自分が仲間にならなかつたかもしれないという気持ちと今後のことを考えると少し不安になつてた。

退院してからは毎日決まった時間に薬を飲む生活だ。何日かマから知人をたよって建築の仕事をしてみたが疲れが残る感じた。連続して仕事ができなくなって休みがちになり気がゆるむようになつた気がする。完治してからの仕事に対して少し不安があるが1日も早く体をならし以前のようには仕事が出来ようになりたい。

再発について心配はあるが仕事をして規則正しい生活をしていけば良いと思っっている。薬の期間が後1か月位で終わるのだが体をならし、仕事の出来る体にして自分の出来る仕事を探したいと思っっている。結核はきちんと治療すれば必ず治ると思い薬を飲んで治療している。

今は、山谷のドヤで、個室に暮らしている。病気のせい、セキだけでなく、イビキもひどいので、共同施設では周囲に迷惑がかかる。共同生活ではまたいつ何時再発するかもしれない。そのため、福祉の方からは、仕事に入っても「寮はやめてほしい」と言われている。やはり結核で入院した私の友人は、退院後、服薬をやめたため、救急車で運び込まれて再入院になった。今度の入院は長くなりそうだとのこと。私はもう入院は御免だ。

毎月、DOTS（ドッツ）のグループミーティングに参加し、病院から薬をもらい、保健所から生活のアドバイスを受けている。「カゼだけはひかないように」と注意されている。カゼをひいたら再発するから。今は生活保護を受けている。やがてアパート暮らしになると思っけれど、年が年なのですぐに仕事につけるとも思えない。できる範囲で、清掃などのアルバイトをしたいとも考えている。ただ再発のおそれが常に付きまわっている。保健所と病院、新宿福祉と相談しながら、今後のことを考えていきたい。

こえ

2

Nさん
(54才)

ずいぶん前に知らないうちに結核にかかってしまったらしい。それは自然に治ったらしいのだけれど、2年前にその影がレントゲンで発見され、入院して喀痰塗抹、喀痰培養などの検査をして調べた。問題なかつたらしくまもなく退院した。体もなんの変化もなく仕事をしてた。去年11月、東京都の「地域生活移行支

こえ 3 さん (44才)

2年前、戸山公園で野宿している時、建築会社で健康診断を受けた。診断はただ肺が悪いと言われただけだった。その頃から、自分でも、風邪を引くと長引いて、せきが止まらなくなるので、どっか体がおかしいなと思っていたが、何の病気かはわからなかった。

去年の12月、東京都の「地域生活移行支援事業」で行われた健康診断を、戸山公園で受けた。その後、戸山公園相談所の相談員から、病院で再検査を受けて下さいと言われたが、たいして気にしていなかった。病院で再検査を受け、担当医師に結核ですと言われた時だけびびりしたが、ちゃんと薬を飲めば治る病気だと説明されてからは、不安を感じることはなかった。

現在は、簡易宿泊所に泊まって、DOTS(ドッツ)で、保健所に月曜日から金曜日まで、午前中毎日通っている。行きたくない日もあるが、今まで5か月間、医者や看護師の方から、毎日薬を飲まないと治らないと言われたし、また、治さないと、まわりの人に迷惑がかかるから行かなかった日はない。今は結核を治すことを第一に考え

てる。
結核に関しては、薬を飲めば完全に治ると言われたので、不安はないが、むしろこれからの仕事に関して不安を感じる。



Illustration by Geoff Read